

熱解析技術

概要

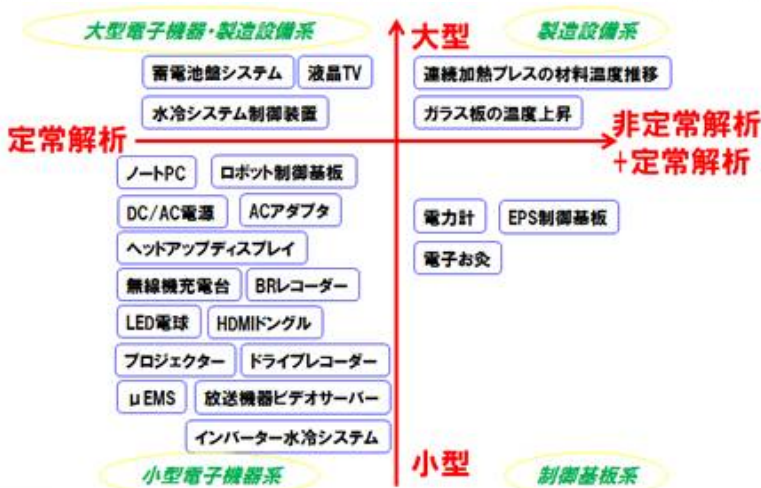
ノートPC等の電子機器から蓄電池盤などの大型設備、連続加熱プレスにおける材料温度推移など、幅広く解析を行います。

背景

設計のリードタイムが短くなる中、初期段階で熱設計を考慮しないことで、熱トラブルによる後戻りが発生する場合があります。はじめから問題点を知っておくことでコンテンツンシープランを立案し、解析で確認することにより、熱トラブルによる後戻り及び試作費用の削減が行えます。

当社の特徴

- 豊富な解析経験
解析条件など、お客様にあまり負担をかけずに対応可能
※負担軽減策＝従来機種の実測、過去の類似事例の流用、デバイス等の独自調査
- 熱トータル対応
解析だけではなく、構造仕様・熱設計をご提案
- 豊富な構想設計
CAEを活用し、構想設計段階での最適化提案が可能



- ✓ ノートPC等の電子機器から蓄電池盤などの大型設備など、解析対象を問わず幅の広い解析を実施しています
- ✓ お客様の負担(解析条件)を極力減らして解析します
- ✓ 開発の上流で問題点のピックアップ、改善策の盛り込みを可能にします
- ✓ 起こり得る問題を解析ツールで可視化し、解決する方法を提案します

活用が期待される分野

設計プロセスの上流で解析技術を活用し、問題の早期解決や設計品質向上を実現します。

- 定常熱流体解析
一定動作させた時の熱的に安定した状態(熱平衡)での温度分布が判る解析を行います。危険箇所を事前に特定でき、効率的に確度の高い熱対策が行います。また、風の流れ、液体の流れなども同時に確認します。
- 非常定常熱流体解析
稼働開始からの時間経過による温度分布を知ることができます。熱伝導経路や目標箇所が所定温度になるまでの時間を推定できます。また定常解析では不可能な時間ごとに変化する発熱量を個々に設定し解析を行います。
- 自由曲面熱流体解析
形状により流速分布に影響がある場合に有効な解析を行います。

※記載されている社名・商品名・サービス名などは、それぞれ各社が商標として使用している場合があります。